

LRTはマニラ市民の生活に 溶け込んでいます。

ホセ P. ダンス, Jr.

LRT is accepted by the people of Manila and they can use it quite well.

Jose P. Dans, Jr.

小林 DOTC (フィリピン運輸通信省) と当学会の共催のLRT (Light Rail Transit) インパクトアセスメントセミナーも、おかげさまで先ほど終了しました。ご協力ありがとうございました。ダンスさんは前運輸通信大臣でいらっしゃるわけで、このLRTのプロジェクトはあなたが携わったプロジェクトの中で特に大きなものだと思いますが、まず、現在の運行状況についてお話しただけですか。

ダンス マニラの交通機関としては、順調に運行しているものの一つですが、その反面、騒音公害など、多くの問題が見落とされています。しかし、政府の事業の中ではもっともしっかりしたものであると認められており、マニラ市民にも非常に好意的に受け入れられています。ですから、LRTは成功しているといえます。事実、現在、このシステムに対して政策的にも技術的にも上を行くものはなく、また、もろもろの利益もコストを上回っています。

小林 開業して今年で5年経つわけですね。

ダンス 1984年12月に部分開通して、翌年5月に全線完成しましたからそういうことになりますね。

小林 順調な運行の陰には、様々なご苦労があったと思いますけど……。

ダンス 1979年に運輸通信省ができた当初は、仕事を進めることが非常に困難でした。路線設定はほとんど決まっていなかったのを、それを確かめ、最も最適な方法を考えることから始めました。先ほどア

インシーデル氏が指摘していたように、我々は、最初この高架システムに反対しました。なぜなら、ご存知のように、新しい交通機関は、既存のものを脅かしてはならないからです。こういった点をいろいろ考慮して、我々は、1979年までに既に完成していたバンコックの大量高架輸送を調べ、いろいろ参考にしようと試みました。といいますのは、タイとフィリピンは経済的にも都市開発の面でも類似した点

が多いですし、1980年時点のGNPや人口もほぼ同じだったからです。実際の調査は大変役に立ちました。**小林** 建設工事は既存の道路を全面閉鎖して行われたとか……。

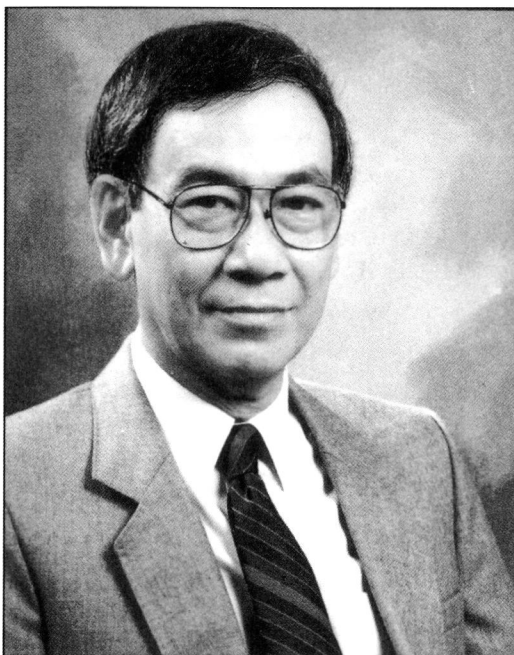
ダンス その通りです。そのため、長期間にわたって交通混雑が続き、メトロマニラの商業・業務活動や交通に多大な影響を与えました。このような事態は2号線の建設時には避けなければなりません。

小林 維持・管理の面についてはいかがですか。

ダンス 交通システムは維持・管理システムそのものです。しかし、ここマニラでは、決して良い状況とは言えません。その点、日本の新幹線は素晴らしいと思

いますね。

小林 それが安全を支えているのだと思います。ところで、マニラには、非常にユニークな交通機関が多く、フレキシブルな移動形態をもつ市民の重要な足になっています。そういった点から、LRTが他の交通機関に与えたインパクトについて、話していた



1979年から1986年に亘り、フィリピン運輸通信省初代大臣を務める。LRT建設と運用での貢献度は大きい。本来民間のエンジニアであり、運輸関連事業に多くの業績を残す。現在はコンサルタントとして活躍中。

インタビューー

小林 實

本学会主任研究員。安田火災海上保険㈱顧問。専門は交通心理学。国際協力事業団派遣専門家、科学警察研究所主任研究官等を歴任。交通問題の国際協力に関心が高い。



だけませんか。

ダンス ジプニイとバスへのインパクトは非常に大きいものでしたが、その問題については、ジプニイ・バス自身がそれぞれ解決していきました。我々も、運行前から、LRTの影響を受けないために、新しいルートを開拓するように、彼らに呼び掛けてきました。最初は元の路線に留まり、ほとんど変化は見られませんでした。約半年後には、ごく自然に新しいルートができていきました。まだ、LRT路線に沿って運行しているものもありますが、それらは、駅まで歩きたくないというようなショート・トリップ目的の乗客に利用されています。

小林 つまり、利用者は、それぞれの目的に合わせてうまく使い分けているわけですね。我々の調査からも、ジプニイは経済性や快適性が見直され、フィーダーサービスとしての有効性が評価されてきていることが分かりました。このようなことから、ジプニイの再編は成功したといえますね。

ダンス 経営が困難になり、つぶれたジプニイやバスもありましたが、小林さんがおっしゃる通り、現在生き残っているものはフィーダーシステムとしてうまく機能しています。LRTの駅に行けば分かりますが、ジプニイやバスが客待ちをしていますよ。

小林 LRTの導入に伴って、人々の生活や意識に何か変化が見られましたか。

ダンス IATSSの調査で示されたように、市民の意識にも影響を与えたようです。私の見たところでは、特に通勤や通学に利用している人たちは、随分時間を大切にするようになったと思います。このように良い反応が表れたことは大変喜ばしいことです。

小林 本日のセミナーについてのご感想をお聞かせ願えますか。

ダンス とても関心がありましたし、有益だと思います。これは他の参加者もそうだと思います。ほとんどの人が、何らかの形で、当初からLRTに関係していましたから。ただ一つ残念なのは、技術部門ばかりで、政策担当部門の参加がなかったことです。

彼らがいれば、今日の議論をさらに深めることができたいと思います。

小林 現在2号線の計画が進められていますが、その後も、マニラにおいてこのようなシステムは拡大していくでしょうか。

ダンス 私個人としては、3号線、4号線、……と、どんどん進めていってほしいですね。

小林 ところで、先日シンガポールのMRT(Metro Rapid Transit)を見る機会がありました。同じ東南アジアの国という点から、類似のシステムとして、このMRTが挙げられると思いますが、これについてはいかがでしょうか。通勤手段としてはとても有効に機能していますが、昼間に乗客数が激減しているなど、いろいろ問題を抱えているようですね……。

ダンス そうですね。問題はありますが大変快適ですね。エアコンも付いていますし、駅も大変きれいで、大容量の車両を使用しています。これは裕福な国だからできるのです。しかし、フィリッピンのような発展途上国ではこのような余裕はありません。ジプニイが必要ならばジプニイを買えばよいわけで、ロールスロイスやベンツは必要ないのです。

小林 東南アジア諸国の首都圏においては、どこも公共輸送システムの確保が大きな問題となっています。このような状況から、これからLRTの役割はますます重要になるとと思いますが、マニラにおいてもさらに有効に、かつ円滑に運行されるように願っています。

インタビュー後記

（施 1999年2月13日実施）
 なる存在がどうしても必要
 場合、ダンスさんのような
 的な場が必要であり、その
 成果が今回のような国際
 とする。今後、学会の研究
 フイリッピン人の一人だ
 学ぼうという意欲の強い
 り、日本を理解し、多くの
 象であつた。私の知る限
 で、水を得た魚のような感
 中、人間に帰らされた感じ
 ンスさんだが、すっかじ
 中に比べて、すっかじ
 久し振りにお会いした
 久しぶりにお会いした